共六

尋常小學讀本

文部省著作

發賣所 合名會社國定教科書共同販賣所

五

国立国語研究所
72424
図書館



文部省著作
尋常小學讀本
五

發賣所 合名會社國定教科書共同販賣所

もくろく。

だい一　わたくしの家。……一
だい二　のあそび。……三
だい三　水ノタビ。(一)……六
だい四　水ノタビ。(二)……八
だい五　むぎ。……十一
だい六　ひばりと人。……十四
だい七　蚕（カヒコ）。……十八
だい八　たうゐ。……二十一
だい九　ツユ。……二十二
だい十　水ノコーヨー。……二十七
だい十一　汽車のたび。(一)……二十八
だい十二　汽車のたび。(二)……三十二

ダイ十三　ウミバタ。……三十六
ダイ十四　カウモリ。……三十九
だい十五　夕立（ゆふだち）。……四十三
だい十六　雷（かみなり）のおちた話。……四十五
ダイ十七　軍艦（グンカン）。……五十
ダイ十八　黄海（コーカイ）ノ戦（タタカヒ）。……五十二
だい十九　秋（あき）の野原。……五十五
だい二十　山の上のみはらし。……五十九
ダイ二十一　太郎ノ町。……六十三
だい二十二　大水。……六十五
ダイ二十三　材木（ザイモク）。……七十二



むかふに、高い杉の木が

だい一　わたくしの家。

見えませう。あそこに、わたくしの家があります。

家の前には、さくらの木ともものの木とがあります。さくらの木は、もう、つぼみが大きくなってゐます。

わたくしの家には、おとうさ

んとおかあさんとがおいでです。
んも、おばあさんもおいでです。ま
といふ妹もゐます。
ゆふはんは、うち
べます。ゆふはんがすむと、わたくし
で、ならったことのお話をします。そ
おばあさんがいろいろ、おもしろい
してくださいます。

わたくしの、いちばん、すきなところは、學校（がっこー）とわたくしの家とです。

だい二　のあそび。

かぜが、だんだん、あたたかになってきて、木もめをだしました。草もみどりになってきました。野原には、たんぽぽやすみれなどが、いちめんに、さきそろってゐます。空では、ひばりがさへづってゐますし、林では、うぐひすがない

野原



てゐます。ちょーちょは、花から
花へ、まってゐます。
おはなとおちよとがつみく
さをしてゐますと、太郎も、文
吉も、あそびに、きました。
吉も、あそびに、きました。
たってゐます。
春がきた。　春がきた。

來　鳥

どこに、きた。

山に、來た。　野に、來た。　さとに、來た。」

花がさく。　花がさく。

どこに、さく。

山に、さく。　野に、さく。　さとに、さく。」

鳥がなく。　鳥がなく。

どこで、なく。

山で、なく。　野で、なく。　さとで、なく。」

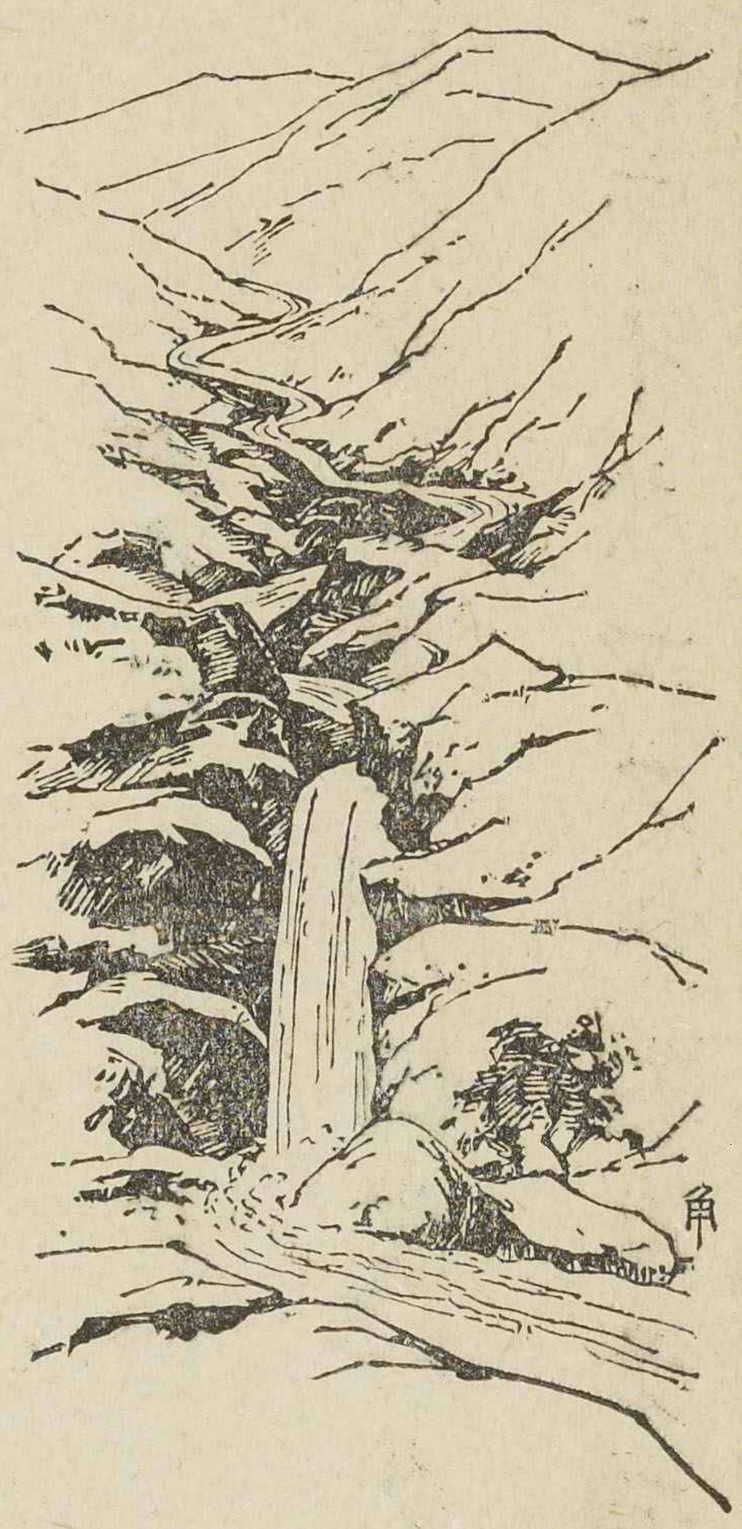
谷

ダイ三　水ノタビ。(一)

ワタクシハ水ノヒトシヅクデス。ハジメハ、山ノ土ノ中ニ、ヰマシタガ、クラクテ、タイソ丨、コマリマシタ。ソコデ、ナカマトイッショニナッテ、土ノソトヘ、デマシタ。スルト、ダンダン、ナカマガフエテキテ、山ト山トノアヒダノ谷ニ、オリマシタ。

谷ニ、オリテカラ、マモナク、ガケノ上ニ、デマ

平



シタ。ワタクシドモハ、ソノガケカラ、トビオリマシタ。ワタクシドモノトビオリルノヲ、人ハ、瀧(タキ)トイヒマス。

ソレカラ、スコシ、イクト、ミチガ平ニナリマシタ。ミチノリョーカハニハ、イロイロノ草ガハエテヰマシタ。日ハ、キラキラト、ワタクシ

魚　休　右左

ドモノ上ニ、テッテ、魚ハ、ウレシサウニ、ワタクシドモノ中デ、アソンデヰマシタ。ワタクシドモハ、オモシロクテ、ヨルモ、ヒルモ、休マズニ、アルキマシタ。ワタクシドモノアルイテヰルノヲ、人ハ、川トイヒマス。

ダイ四　水ノタビ。(二)

ワタクシドモガ、田ヤ、ハタケノアヒダヲトホッテイキマスト、右カラモ、左カラモ、ナカマ

ガンヨッテキマシタ。ワタクシドモノ
カンダン、ヒロクナッテ、上ニハ、橋（バシ）トイ
ワケテアリマシタ。
タクシドモハ、イケバイクホド、ナカマガ
エテ、マモナク、町ノ中ニ、ハイリマシタ。ワ
クシドモノリョーカハニ、リッパナ
家ガナランデヰマシタ。マタ、上ニハ、テツノ
橋（バシ）ヤ石ノ橋（バシ）ガカケテアッテ、人ヤ馬ヤ車ガ、イ

ソガシサウニ、トッホッテ丼マシタ。
ソレカラ、スコシ、タッテ、ワタクシドモノ上ニ、
オモイモノガノリマシタ。「ナニカ」トオモッタラ、フネデシタ。舟ニハ、ニモツガ、タクサン、ツンデアリマシタ。マタ、人モ、オホゼイ、ノッテ丼テ、カイトイフモノデ、ワタクシドモハ、ソレカラ、マタ、スコシ、タッテ、ワタクシドモヲカキマシタ。

タイソー、ヒロイトコロニ、デマシタ。ココニハ、ミトホスコトノデキンホド、ナカマガ、オホゼイ、ヨッテヰマシタ。コノヒロイトコロニ、ナカマガ、オホゼイ、ヨッテヰルノヲ、人ハ、海トイヒマス。

だい五　むぎ。

文吉は、むぎばたけのそばで、おとうさんと、話をしてゐます。

早麥畑

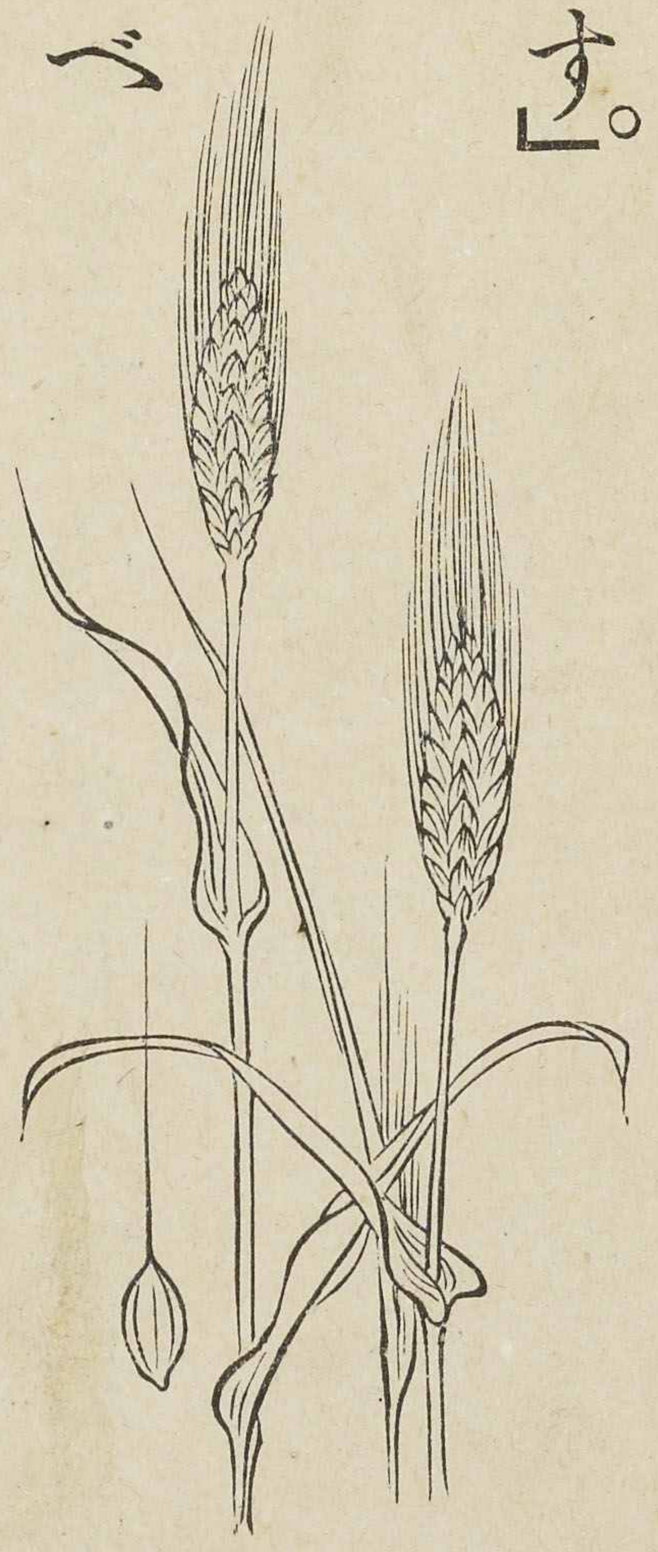


「おとうさん。この畑では、むぎが、もう、ほを出してゐますのに、あの畑では、まだ、ほを出してゐません。」

「おまへは、よく、きがつきました。これは大麥とあの麥とはちがひます。また、あれは小麥といって、早く、ほを出して、早く、みのるものです。」

て、大麥よりは、おそく、ほを出して、おそく、みのるものです。」

「それでは、ごはんにいれて、たべるのはどちらですか。」



「それは大麥です。小麥のほーは、ひいて、こなにして、うどんやそーめんをこしらへたり、または、ぱんをこしらへたりします。

おまへは、人が、なつ、かぶる麥藁帽子は、なんで、こしらへたのだか、しってゐますか」。

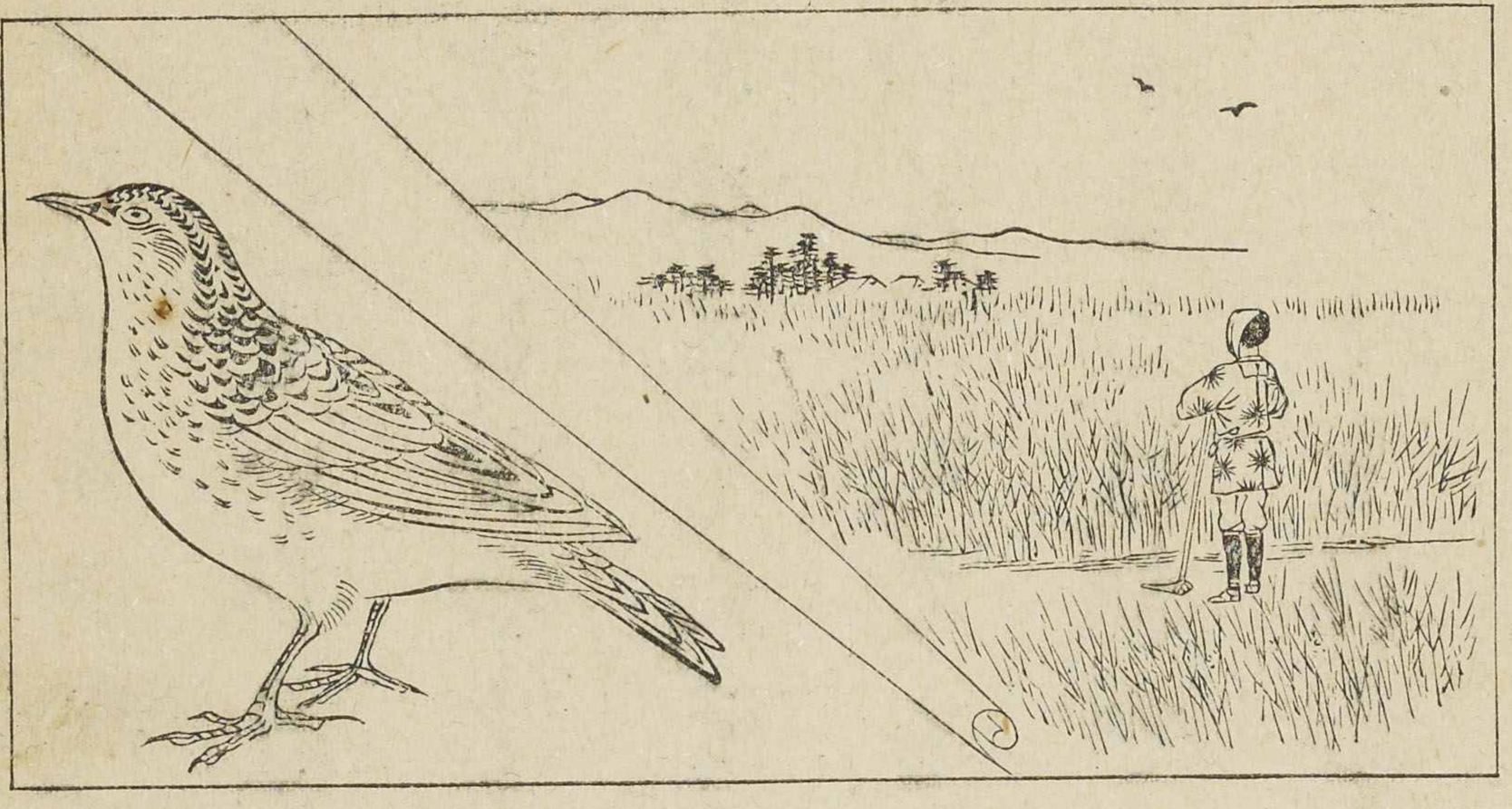
「いゝえ。知りません」。

「あれは、大麥、または、はだかむぎといふものなどのくきをあんで、こしらへたのです」。

ひばりと人。

だい六　ひばりが、麥畑に、すをこしらへてゐました。

出



ある日、おやどりが、ゑをさがしに、出るとき、ひよこに、「よく、きをつけて、るすをなさい。」といひました。

まもなく、人がきて、「麥が、よく、みのった。もう、からねばならん。」といって、かへりました。

ひよこは、しんぱいして、おやどりがかへると、この話をし

次

ました。おやどりは「なに。しんぱいせんでも、よい。」といひました。

次の日、おやどりのるすに、また、きのふの人が來ました。そして、「あした、となりの人にたのんで、かってもらはう。」といって、かへりました。ひよこは、おやどりがかへると、また、すぐ、このことを話しました。おやどりは、また、「なに。まだ、さう、しんぱいせんでも、よい。」といひま

した。

その次の日、また、まへの人が來ました。そして、「人にたのんだのではだめだ。あしたは、じぶんで、からう。」といって、かへりました。

ひよこが、おやどりに、このことを話しますと、おやどりは「それでは、もう、かうしては、をられん。あしたは、きっと、かるにちがひない。」といって、ひよこをつれて、すをたちました。

虫　指　蚕

ひとは、じぶんでするきにならんと、どのよーなしごともできるものではありません。

ダイ七　蚕（カヒコ）。

カヒコハ、桑（クハ）ノハヲタベテ、大キクナル虫デス。ハジメハ、小サナ虫デスガ、大キクナルト、ミナサンノ手ノ指グラヰニナリマス。

蚕ノ小サナトキニハ、人ガ桑（クハ）ノハヲ、キッテ、ヤリマスガ、大キクナルト、キラズニ、ヤッタリ、枝



ニツイタママデ、ヤッタリシマス。

蚕ハ、タイテイ、二十五日カラ四十日グラヰノアヒダ、桑(クハ)ノハヲタベテ、ソノアヒダニ、四ド、ネムリマス。ソシテ、モウ、タベンヨーニナルト、カラダガスキトホッテキマス。サウナルト、人ガ蚕ヲマブシニウツシマス。

卵

サウスルト、蚕ハ、ロカラ、糸ヲ出シテ、スヲカケマス。コノスヲ繭(マユ)トイヒマス。

蚕ハ、コノ繭(マユ)ノ中デ、サナギトイフモノニナリマス。ソシテ、マタ、ガトイフモノニナッテ、繭(マユ)ヲヤブッテ、出マス。ガハ、タイソー、チョーチョニニテヰマス。

コノガヲ、紙ノ上ニ、ハナシテオクト、卵ヲ、紙ニ、ウミツケマス。コノ紙ヲタネガミトイヒ

マス。コノタネガミノ卵ガカヘルト、マタ、小サナ虫ニナルノデス。

蚕ノ繭（マユ）カラハ、人ガ糸ヲトリマス。コノ糸ヲ生糸（キイト）トイヒマス。生糸（キイト）ヲネルト、練糸（ネリイト）ニナリマス。生糸（キイト）ハ、ワガ國（クニ）ニ、タクサン、デキマス。

だい八　たうゑ。

いまは、いそがし、　たうゑどき。

ここでは、馬に　田をすかせ、

苗

そこでは、苗を、　田に、うゑる。
すかせる。うゑる。　いそがしや。」
これから、たびたび、　田草とり。
しだいに、てかずが　ふえていく。
どうぞ、あきまで、　つごーよく、
天氣もつづけ。　雨もふれ。」

天氣

ダイ九　ツユ。

梅

梅ノミガキイロクナルコロニハ、マイトシ、

晝夜

雨ガフリツヅク。雨ノフルノハ、トコロドコロデ、スコシヅツ、チガフガ、タイテイ、六月ノナカバカラ七月ノハジメマデ、二十日(ハツカ)アマリ、ツヅク。コノコロヲツユトイフ。

コノコロハ、晝モ、日ノヒカリヲ見ルコトガスクナク、夜モ、月ノヒカリヲ見ルコトガスクナイ。ニハニハ、コケガハエルシ、キモノヤハキモノナドニハ、カビガハエル。

フリツヅイタ雨ガ、モウ、フランヨート、ツユガアガッタ。」トイフ。ツユガアガーニ、アツクナル。コノトキニ、ヨク、キント、病氣ニナル。

けふ、せんせいから、ききましたは、このごろ、ご病氣ださうでございますが、ごよーすはいかがでございま

すか。このごろは、雨がふって、たいそー、ここちがわるいときでございますから、どうぞ、おだいじになさいませ。

六月十一日　　たけ

おちよさま

きのふは、お手紙をくださいまして、ありがたうございま

す。わたくしの病氣は、もう、すっかり、なほりましたから、あしたから、がっこーに、まゐるつもりでございます。どうぞ、ごあんしんなされてくださいませ。

六月十二日

おたけさま

ちよ

飲死重

ダイ十　水ノコーヨー。

水ハ水車ヲマハシタリ、舟ヲウカセタリ、稲（イネ）ヲソダテタリスル。草木ハコレヲスヒ、人ハコレヲ飲ム。水ガナクナルト、草木ハカレテシマヒ、人ハ死ンデシマフ。

マダ、コノホカニモ、ダイジナコトガアル。テツビンデ、水ヲワカスト、ジョーキトイフモノガデキテ、フタヲフキアゲル。アノ、重イフタ

ヲフキアゲルジョーキノデアル。汽車モ、汽船モ、軍艦モ、水ガ、タイソーヤクニタツノデアル。コノジョーキノ力デ、ウゴクノデアル。

キモ、汽船モ、軍艦モ、モトハ、水デアル。汽車モ、モトイッテモ、ジョーキトイッテモ、ナクナルト、ウゴカレテ、トマッテシマフ。

だい十一　汽車のたび。　(一)

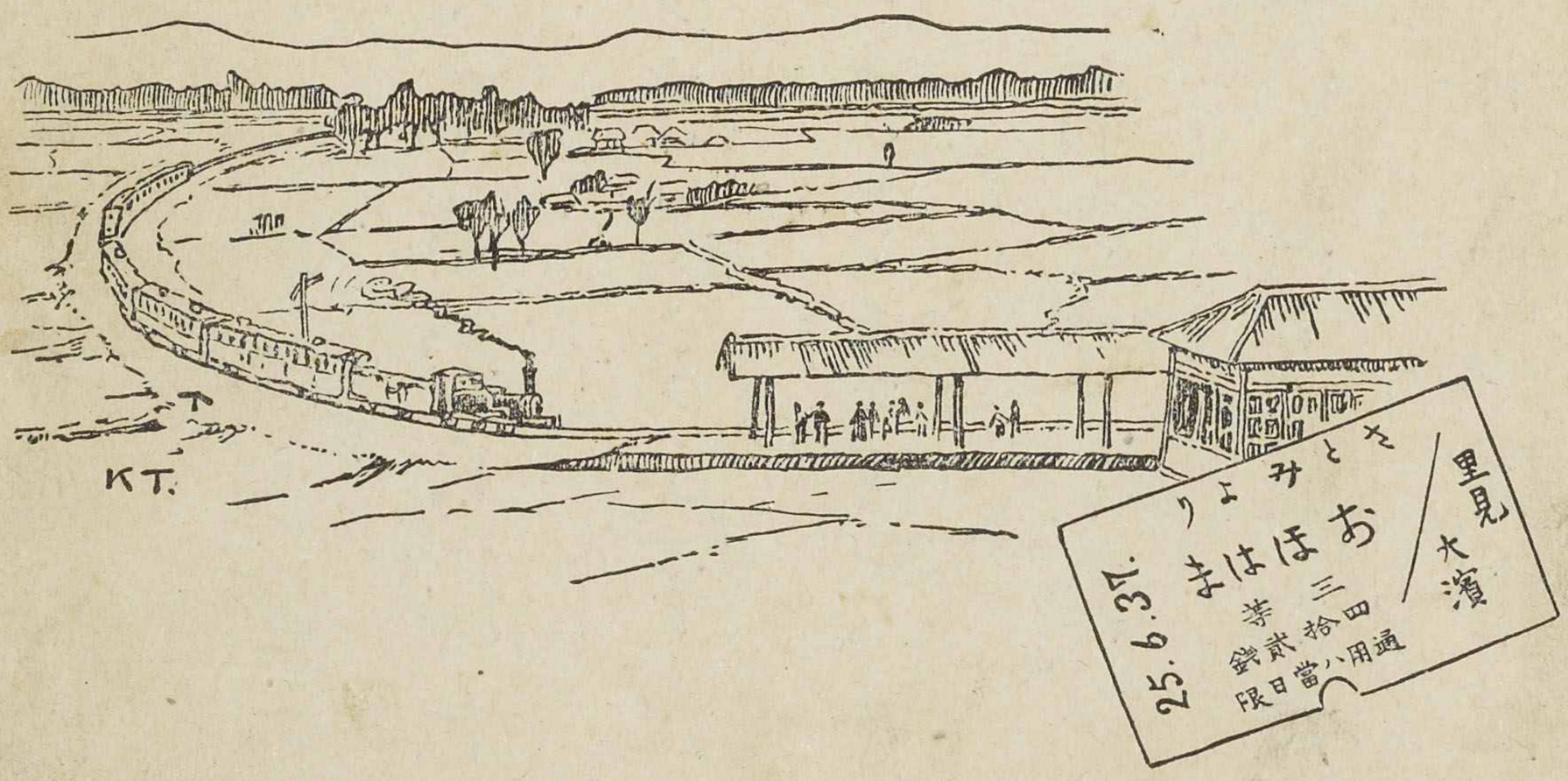
小太郎は、おとうさんと、停車場に、いきまし

行

た。ふたりは、これから、をばさんのところへ、行くのです。

停車場では、もう、人が、おほぜい、切符をかってゐました。ふたりも切符をかって、まってゐました。

まもなく、汽車がけむりを



出して、むかふから、来ました。はじめは、機関車ばかり見えました。

小太郎は、汽車が、あまり、早く、来るから、「おとうさん。汽車は、ここで、とまりませうか。」とたづねました。おとうさんは「とまります。」といひました。

こ[illegible]に、汽車が着きました。

この停車場で、人が、おほぜい、おりました。

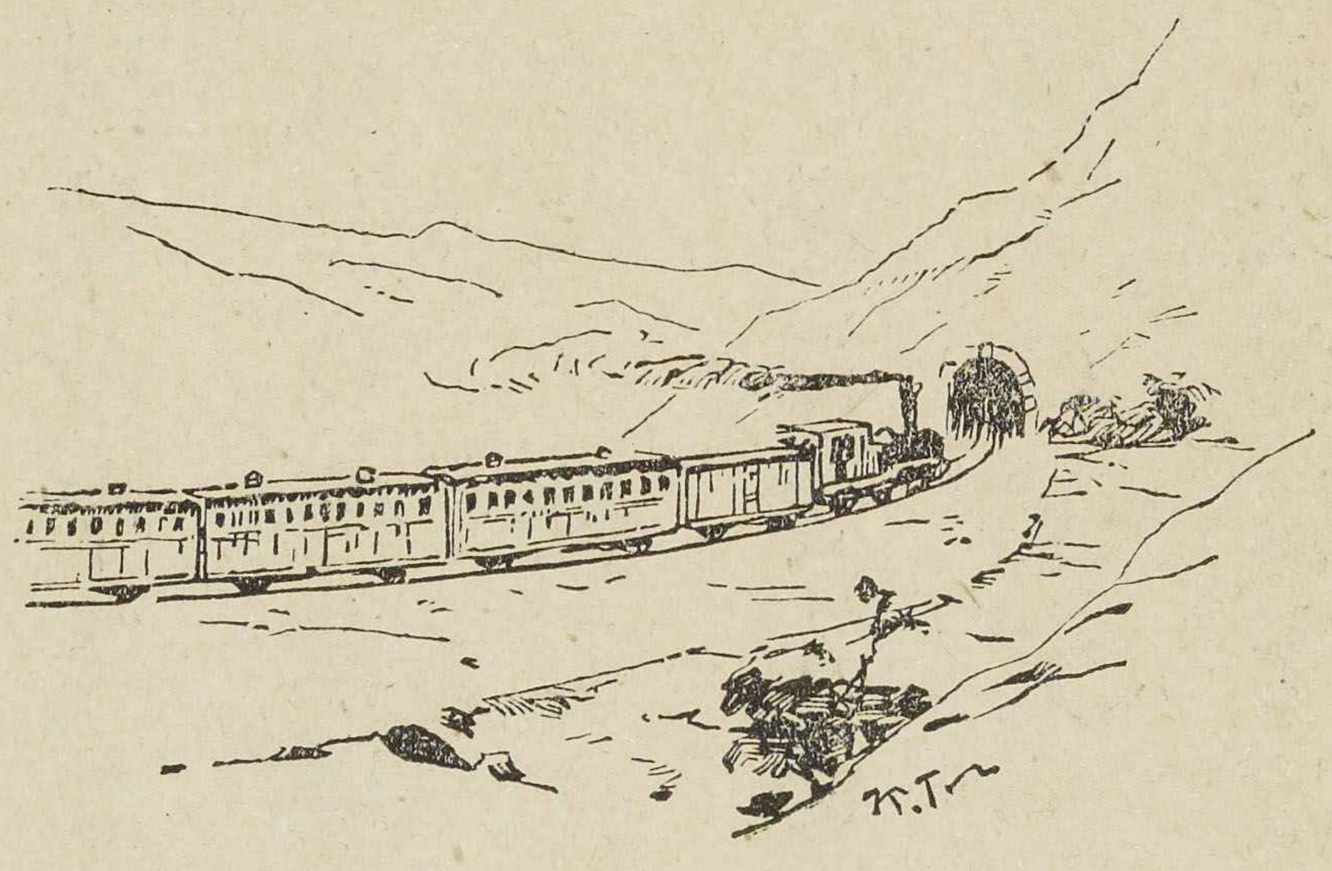
入[illegible]りかはって、また、おほぜい、のりこみました。

ふたりものりこみました。すると、きてき
なって、汽車が動きだしました。
小太郎は、おもしろがって、まどの中から、そと
を見てゐました。汽車は、だんだん、早くなって
きて、山も、川も、林も、後のほーへ、とんで行く
よーに、見えました。たんぼで、はたらいてゐる人も、馬も、車も、
見えたかとおもふと、すぐ、後になってしまひ

ました。

だい十二　汽車のたび。(二)

ふたりののりこんだ汽車は、村をとほったり、たんぼをとほったりして、きゅーに、まっくらなところに、はいりました。小太郎はびっくりしました。小太郎が、すぐ、あかるいところに、出ますか。」と太郎は「おとうさんは「いまのはなんでたづねました。おとん



ねると汽車は、まもなく、つぎの停車場に、着きました。こゝでも、人が、おほぜい、おりたり、のったりしました。

汽車は、また、ここを出て、いくつかの停車場を、とほって、行きました。そのうちに、鐵橋を

ほって、かみなりのような音をさせました。しばらくすると、むかふに、海が見えて、汽車は、松林の中に、はいりました。松林をぬけると、海ばたの停車場(ていしゃば)に、着きました。

ふたりは、この停車場(ていしゃば)で、おりました。小太郎のをばさんの家は、この停車場(ていしゃば)のすぐあるのです。

小太郎は、をばさんの家から、おかあさんの

母様

午前十時に、つきましたをばさんのうちでは、どなたも、おかはりがありません。あしたは、三郎さんと、海ばたへ、あそびに、まゐります。

六月二十五日

小太郎

母上様

沖方

ココダイ十三ウミバタ。

タッテハウミバタデ、リョーシノ家ガ、ホシテアル。ドノ家ニモ、アミガ、ン、見エテヰル。沖ニハ、舟ガ、タクサエテヰル。ウミバタデ、沖ノ方ヲ見ナガラ、話ヲシテヰルノハ小太郎ト三郎トデアル。

小太郎「三郎サン。ムカフノ舟ハ魚



夕方

ヲトッテヰルノデスカ」。

三郎「サウデス。魚ヲトッテヰルノデス。夕方ニナルト、ドノ舟モ、ソノ魚ヲノセテ、カヘッテキマス」。

小太郎「ソレカラ、ズット、ムカフノ方ニ、ケムリヲ出シテヰルフネガアリマス。アレハ軍艦（グンカン）デスカ」。

汽船

三郎「イーエ。アレハ汽船デス。キミハ、コレマ

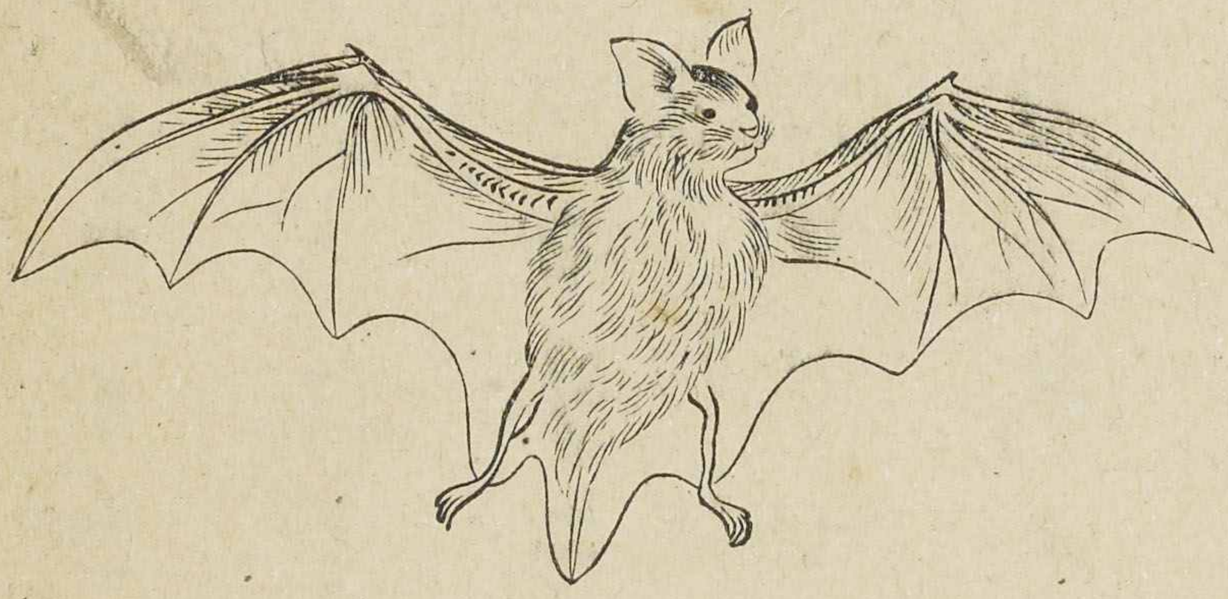
デ
小太郎「イーエ、汽船ヲ見タコトガアリマス
三郎「ソレデハ、アノ岡ニ、ノボッテ、見マ
イ
小太郎「ソレデハ、アソコマデ、カケクラ
ヨ
三郎「シマセウ。サー。一、二、三」。

フタリハ、岡ノ方ヘ、カケテイッタ。

夏　頭

ダイ十四　カウモリ。

カウモリハ、夏ノタ方、ヨク、ソトヲトンデヰルカラ、ミナサンハ見タコトガアリマセウ。



ソノトキ、ミナサンハ「鳥ダ」。トオモヒマシタデセウガ、アレハ鳥デハアリマセン。頭モ、カラダモネズミニニテヰルケモノデス。シカシ、ホカノケモノトハチガッ

テ、ウスイ、ゴムノヨーナ羽ヲモッテヰマスカラ、アノヨーニ、トブコトガデキルノデス。カウモリニツイテ、次ノヨーナ、オモシロイ話ガアリマス。

ムカシ、鳥ノナカマト、ケモノノナカマトガオホゲンカヲシタコトガアリマシタ。

ソノトキ、カウモリハ「ジブンハ、鳥デモ、ケモノデモナイカラ、ドチラニモツカン」。トイッテ

ヰマシタ。

トロガ、ハジメニハ、ケモノガカチナリト、カウモリハ「ジブンハ、カラダガネズミニテヰルカラ、ケモノノ方ニツキマシタ。スルトイッテ、鳥ガカチサウニナリマシタ。トイッテ、鳥ノ方ニツキマシタ。

ルト、カウモリハ、マタ、「ジブンハ、羽ガアルカラ、鳥ノ方ニツキマス」。トイッテ、鳥ノ方ニツキマシタ。

タ。

トコロガ、マモナク、鳥ノナカマモ、ケモノノナカマモツカレテシマッテ、ナカナホリヲシマシタ。ソシテ、カウモリヲニクンデ、ナカマハヅレニシマシタ。ソレデ、カウモリハ、コノトキカラ、晝ハトビマハルコトガデキンヨーニナリマシタ。

コノ話ハ「フタゴコロヲモッテハナラン。」トイ

フユトヲヨシヘタツクリバナシデス。

だい十五　夕立（ゆふだち）。

見るまに、くもる　青い空。
ぴかぴか、ひかる　いなびかり。
なりだすかみなり、
ごろごろごろごろ」。

また、なる、ひかる、そのうちに、
木のはをうって、
屋根（やね）うって、

光

ふりだすおほあめ、
ぱらぱらぱら」。
つづいて、光る。　なる。光る。
雨は、だんだん、　ひどくなる。
のきばのあまだれ、
ぽちぽちぽち」。
やがて、雨やみ、　空はれて、
いつか、日が出て、　にじが出て、

草木に、しづくが、

きらきらきら。」

だい十六　雷（かみなり）のおちた話。

あるが村に、友吉（ともきち）といふ子と、和助（わすけ）といふ子とがありました。友吉（ともきち）は、學校で、先生（せんせい）のいふことを、いつも、よく、氣をつけて、ききましたが、和助（わすけ）は、いたづらをしたり、わきみをしたりして、よくは、ききませんでした。

ある日、このふたりが、學校から、いっしょに、かへってきますと、にはかに、雲が出て、雷(かみなり)が、ひどく、鳴りだしました。雨も、ひどく、ふってきました。

和助(すけ)は、おどろいて、みちばたの高い木の下に、にげこみました。友吉(ともきち)は

「これは、雷のあひだ、先生が『雷(かみなり)のなるときには、どんなことがあっても、高い木の下などに、いってはならん。』とおっしゃったではないか。早く、來

たまへ。」

といって、和助(わすけ)は

「ぼくはそんなことをきいたことはない。」

といって、なかなか、きかせませんでした。友吉(ともきち)は

「それは、きみが、きおとしたのだらう。早く、来たまへ。」

といって、手をひっぱって、むりに、そこから、つれて

時

きました。

和助（わすけ）が木の下を出て、まだ、あまり、とほくも、行かん時のことでありました、目もくらむよーないなびかりがするといっしょに、耳もさけるよーな、おそろしい音がしました。ふたりは、おもはず、耳に手をあてて、そこに、たふれました。

しばらく、たって、ふたりが、かほをあげて、その

あたりを見まはしたら、さきの高い木
は、雷がおちて、まっぷたつに、さけて、
た。和助は、友吉のかたに、手をかけて、
「あー。あぶなかった。もし、きみがをりまし
ら、ぼくは、雷にうたれて、死んでしまふの
だった。」
と和助はこれからいひました。
友吉のよーに、よく、氣をつ

けて、先生のいふことをききました。そして、わきみをしたり、いたづらをしたりするよーなことがないよーになりました。

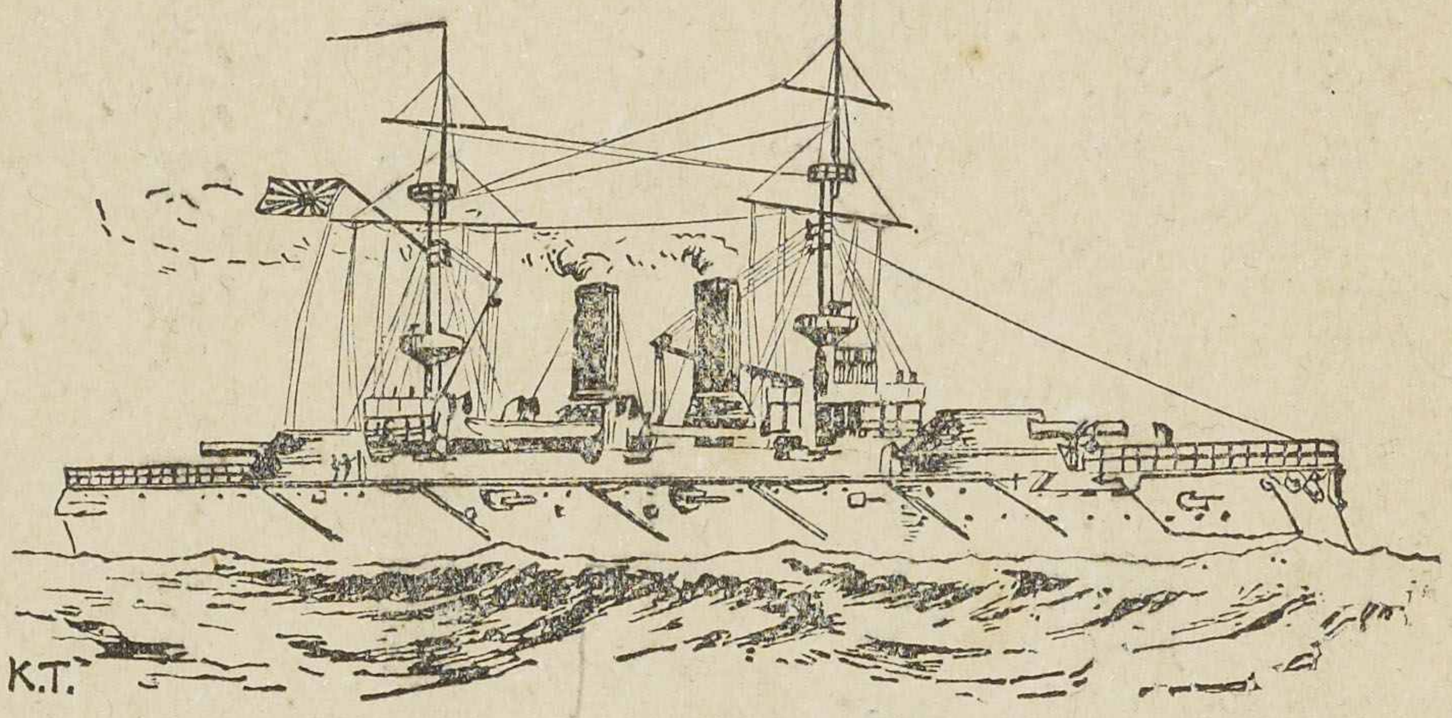
ダイ十七　軍艦（グンカン）。

軍艦（グンカン）ハセンソーニツカフフネデ、タイソー、ジョーブニ、コシラヘテアル。ヤハリ、汽車ノヨーニ、ジョーキノカデ、動カス。

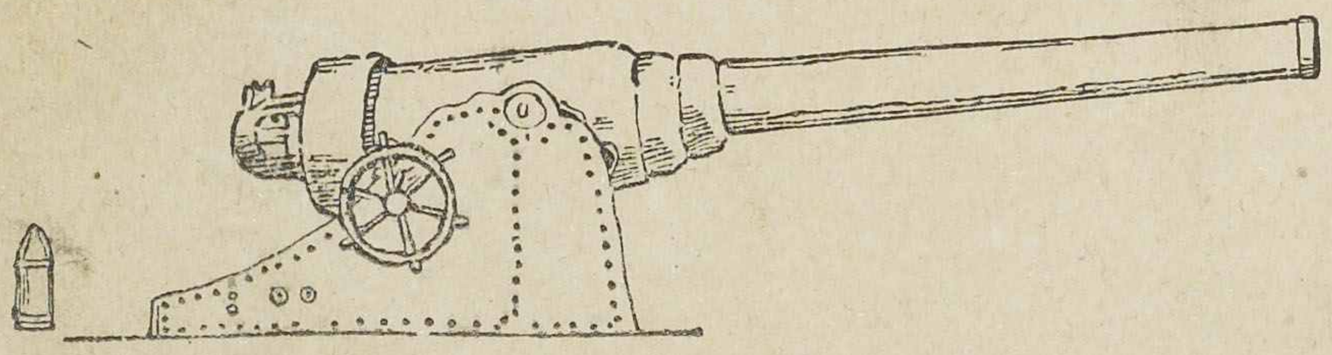
軍艦（グンカン）ハ、タイテイ、ソトガハガ、ハガネデ、ツツ

大砲

長



ンデアッテ、大砲ガ、タクサン、ス
ヱツケテアル。
コレハ富士(フジ)トイフ軍(グン)
艦(カン)ノヱデアル。ホバシ
ラニ、旗(ハタ)ガ見エテヰル。
アノ旗(ハタ)ヲ軍(グン)艦(カン)旗(キ)トイ
フ。マタ、大キナ大砲ガ見エテヰル。ア
ノ大砲ハ長サガ、四十尺ホド、アッテ、ロ



ノサシワタシガ、
二一尺アマリ、アル。
本ノエントツカラ、ケムリノ出テ
ースヤ、ナミヲキッテ、ススンデキル
マコトニ、勇マシイデハナイカ。

ダイ十八　黄海ノ戦。

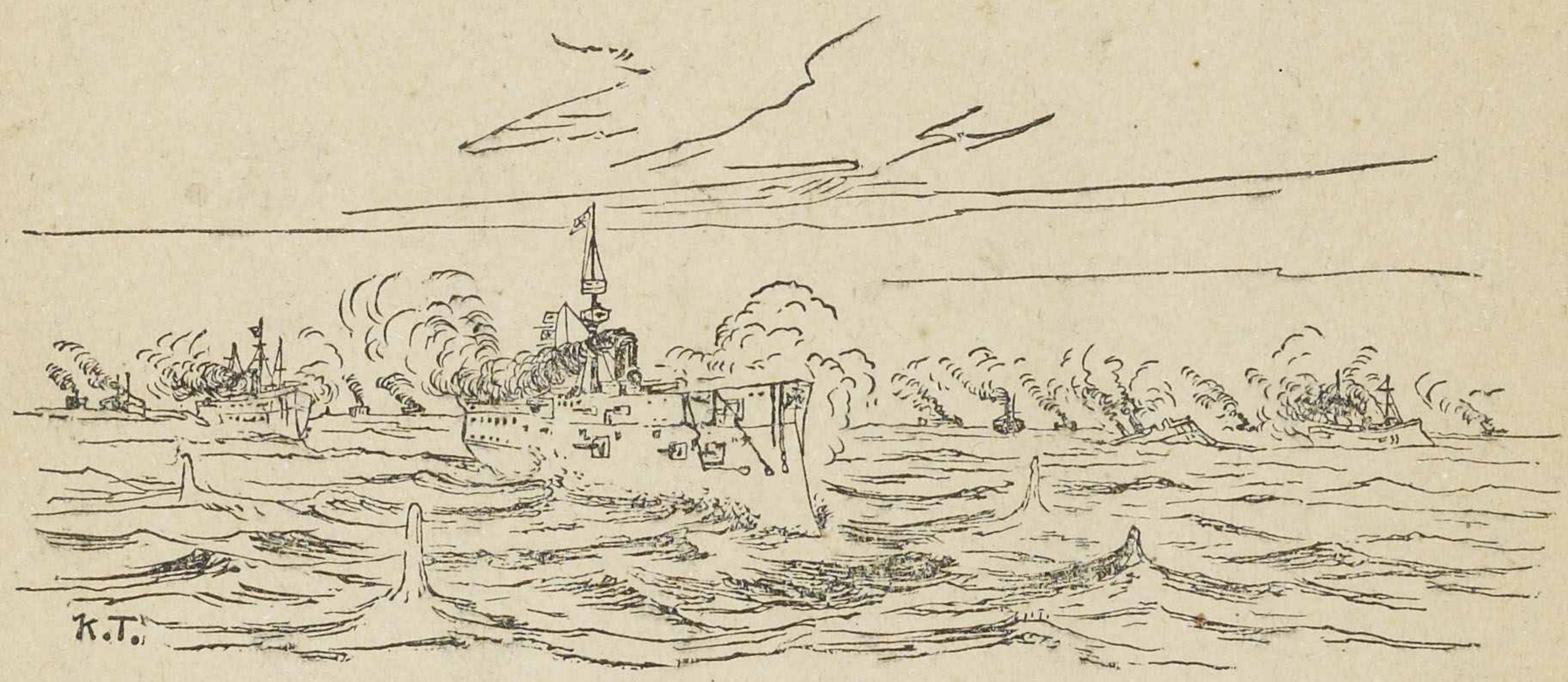
明治二十七年九月十七日ノコトデアリマシタ、ワガ國ノ軍艦、松島、吉野ヲハジメトシテ、十二ソーノ軍艦ガ、ナミヲキッテ、黄海ニ、ノ

遠

リコミマシタ。ワガ海軍軍人ハ「テキ、清國（シンコク）ノ軍艦（グンカン）。ミツケタラ、ノガスモノカ。ウチシヅメヤラウ」ト、勇ミタッテヰマシタ。

テキノトキ、チョード、デアッタノガ、テイエン、チンエンヲハジメトシテ、テキノ軍艦（グンカン）十ニソーアリマシタ。

ソコデ、アワテテ、遠クカラ、大砲ヲウチハジメマシタガ、コチラハ、オチツキハラッテ、テキマシタガ、コチラハ、



近ヅキマシタ。「サー。ウテ。」ト
イフノデ、一ドニテキモウツ。
テ、ウチダシマシタ。テキモウツ。
コチラモウツ。何千トイフカミ
ナリガ、一ドニ、ナリダシタヨー
デ、黄海（コーカイ）ハ、大砲ノケムリデ、ドコ
モ、見エンヨーニナッテシマヒマ
シタ。

コノトホリデ、五時間（ジカン）ホド、ウチアヒマシタ。

ワガ海軍ハ、トートトー、テキノ軍艦（グンカン）ヲ、三ゾー、

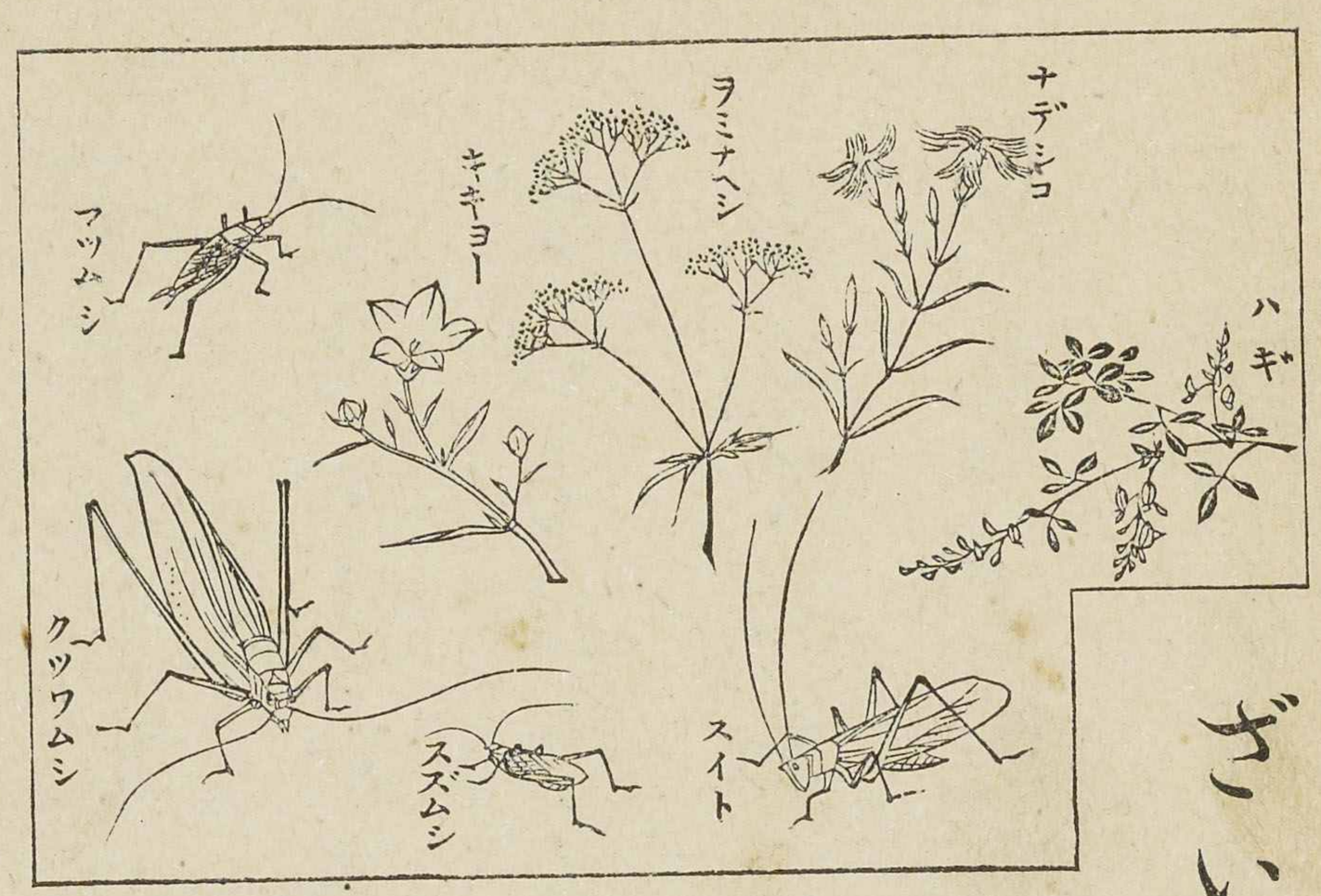
ウチシヅメ、四ソー、ヤキマシタ。テキハ、オソレテ、ニゲテシマヒマシタ。ワガ海軍ハ、カチヲアゲテ、メデタク、黄海（コーカイ）ヲヒキアゲマシタ。黄海（コーカイ）ノ戦（タタカヒ）トイッテ、名高イノハ、コノコトデス。

だい十九　秋（あき）の野原。

あ る 日曜日に、おまつは、姉のおすずと、野原へ、あそびに、行きました。

野原には、いろいろの花がさきそろってゐて、たいそー、きれいでございました。

「ねえさん。きれいでございますね。はぎも さいてゐます。きょーもさいてゐます。あれ。あそこには、赤い花ときいろい花とがさいてゐます。あれはなんといふ花でご



ざいますか。」

「あの赤いのはなでしこといふ花で、きいろいのはをみなへしといふ花です。ここは、晝も、こんなに、いろいろな花がさいてゐて、きれいなところですが、夜も、いろいろな虫がないて、たいそー、おもしろいところです。」

「それはなんといふ虫がなくのでございますか。」

「すずむし、まつむし、くつわむし、すいとんどといふいろいろな虫がなくのです。すずむしはりんりん、まつむしはちんちろりん、くつわむしはがちゃがちゃ、すいっちょすいっちょとなきます。」

「ねえさん。それでは、いつか、おとうさんに

つれてきていただかうではございません
か。」

「あー。このごろは月夜ですから、あしたのばんにでも、つれてきていただきませう。」

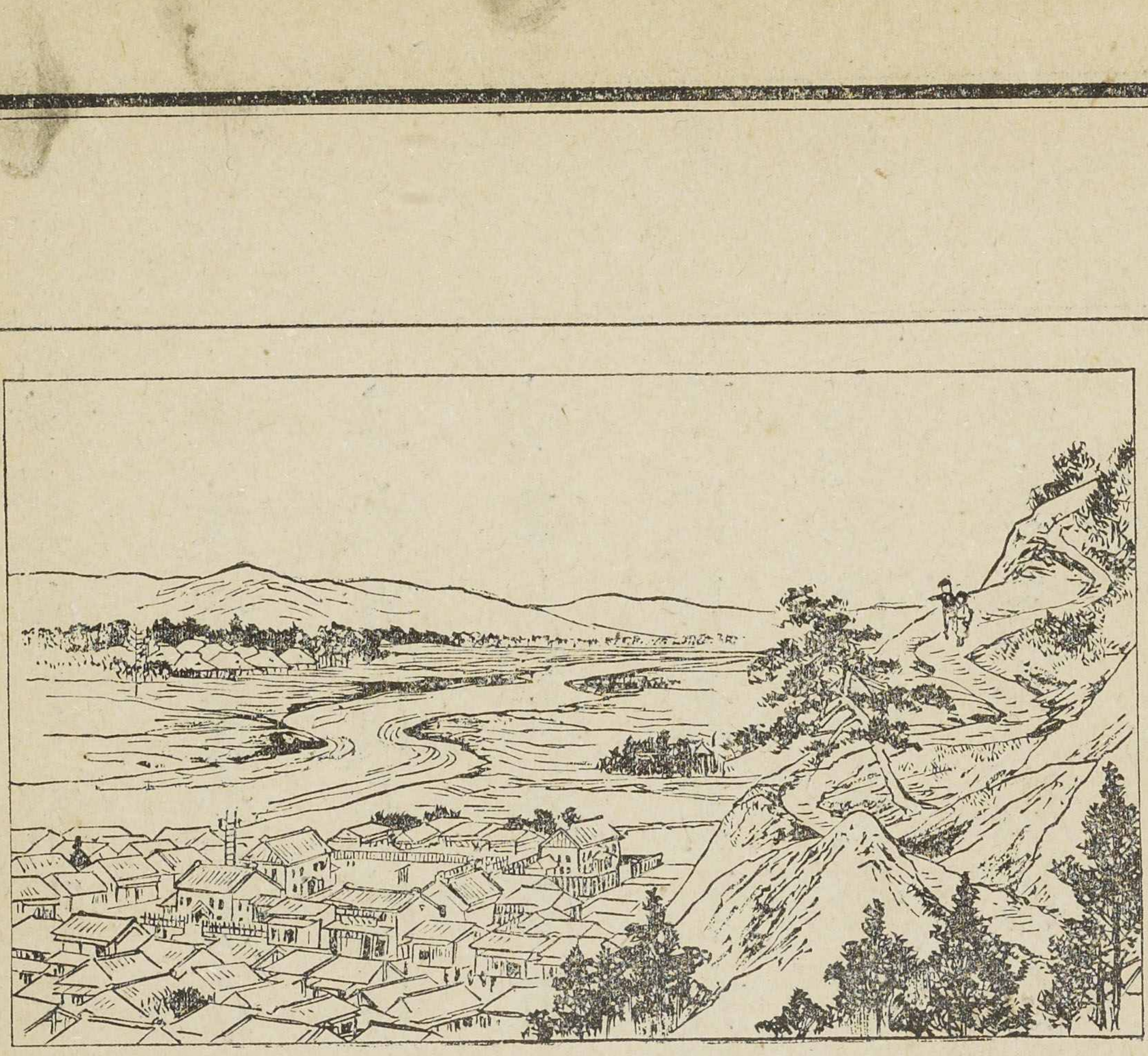
ふたりは、しばらく、そこで、あそんで、うちに、かへりました。

だい二十　山の上のみはらし。

山のふもとからみねの方まで、まがりまがっ

たこみちがあります。太郎と次郎とは、この
ふみちをとほって、のぼっていきます」。
木のたりは杉林の中をとほったり、大きな松の
したの下に出たりして、山の中ほどに、着きま
した。

次郎「にいさん。ぼくらの町が、すっかり、見えま
す。あれが學校で、あれが郡役所ですね。ぼ
くらの家はどれでせう」。



太郎「學校のよこに、火の見のはしごが見えませう。あれが警察署です。」

次郎「あー。わかりました。うちそれから、一けんおいて、左の土藏の屋根も見えますね。」

太郎「さー。みねへ、のぼりませう。みねから、遠方まで、よく、見えます」。

ふたりは、しばらく、たって、みねに、着きました。

すると、太郎の町も、となり村も、みんな、目の下に、見えました。町のうしろの氏神（うぢがみ）の森は、ちょんぼりと、小さく、見えて、となり村との間の大きな川は、白いぬのをしいたよーに、見えました。次郎は、はじめて、山のみねに、のぼ

りましたそー、よろこびました。ふたりは、しばらく、四方をながめて、またのみちから、おりました。

ダイ二十一　太郎ノ町。

太郎ノトナリ村デハ、家ガ、トビトビニ、タッテヰルガ、太郎ノ町デハ、家ガ、ノキヲナラベテ、タッテヰル。學校ト警察署（ケイサツショ）トハ、町ノ中ホドニ、アッテ、本ヲウル店ヤ、筆ヤ紙ヲウル店ハ、ソノ

近クニ、アル。
マタ、呉服屋モ、セトモノ屋モ、小間物屋モ、荒物屋モアル。下駄ノカケテアルシ、ロースク屋ニハ、下駄ノカンバンガカケテアル。カヂ屋デハ、朝早クサセテヰルシ、宿屋デハ、夜ソクマデ、客ヲマッテヰル。晝ハ、キンジョノ村ヲ、カヒモノニ、クル人ガ、タクサン、アル。馬

ヤ車モ、タクサン、通ル。

四五日ほど雨がふりつづいた時のだい二十二大水。

ありました、あるあけごろに、「水だ。水だ。」

どてがきれた。にげよ。にげよ。」といふこゑが

しました。どの家でも、としよりやこどもを

助けて、岡に、たちのきました。太郎おぢい

さんの手をひいて、岡の上に、たちのきまし

午後|

た。下の方を見ますと、もう、田も、畑も、村に、水で、町はづれの家まで、水がおしよせてゐました。わけて、きのどくなのは、太郎の家でありました。家も、何げんか、流れたといふことであって、家も、何げんか、流れたといふことでありました。

午後から、水が、だんぱいしてゐましたが、太郎は、たいそー、しづんだ、びいていきました。

そして、夕方には、みんな、じぶんの家に、かへ

ることができました。

そのばん、太郎は、おぢいさんに「どうして、こんな大水があるのでせうか。」とたづねました。そのとき、おぢいさんは、次のよーに、いひました。

「むかしは、ちかごろのよーには、大水がなかった。それは、川上に、林がしげってゐたからだ。林といふものは、大雨がふっても、その水

をとめておいて、すこしづつ、流れ出るよー
にするものだ。
それだのに、ちかごろは、むやみに、林の木
をきるから、雨がふると、水が、一どに、流れ
出すのだ。
それだから、林の木をきるにも、だんだん
に、きって、そのあとに、木の苗をうえつける
がよい。さうしておけば、たいて

いの大雨では、田や畑の流れるよーなことはない。流れるよーなことがないばかりではなく、川の水のかれるよーなこともないのだ。それだから、川上の林はだいじにして、むやみに、きってはならん。」

ききますれば、このあひだは、たいそーな大水で、水が、つい、ごきんじょまで、ついたといふ

上申

こと。わたくしは、それをきいて、おどろきました。どんなに、おさわぎなさいましたでせう。どなた様にも、おけがなどはございませんでしたか。ちょっと、おみまひ申し上げます。

十月三日

森　一郎

川田三吉様

御安心

おみまひくださいまして、ありがたうございます。いちじはずいぶん、さわぎましたが、まもなく、水がひきましたので、すこしの間でした。どうぞ、御安心なされてくださいませ。

十月四日

川田三吉

材木
桐

森　一郎様

ダイ二十三　材木（ザイモク）。

材木ハ、林カラ、キリダシタモノデアル。材木ニハ、松、杉、ヒノキ、ケヤキ、桐、栗（クリ）ナド、イロイロ、アル。

コノナカデ、イチバン、タクサン、ツカハレルノハ松ト杉トデアル。マタ、ヒンノヨイノハヒノキデ、カタイノハケヤキデアル。

松、杉、ヒノキ、ケヤキハ板ニシタリ、柱ニシタリ、家ヲタテタリ、橋(ハシ)ヤ船(フネ)ヲコシラヘタリ、桶(ヲケ)ヤタルヲコシラヘタリ。杉ハ、コノホカ、電信柱(デンシンバシラ)ニシタリスル。

桐ハ、カルクテ、ウツクシイカラ、机、本箱、ダンス、ゲタナドニ、ツカヒ、栗(クリ)ハ、カタクテ、ナガク、マクラギナドニ、ツカフ。

サテ、コノ材木ヲキリダス人ヲソマトイフ。

材木ヲヒイテ、板ナドニスル人ヲコビキト

イフ。コノ材木ヤ板デ、家ヲタテルノガ大工(ダイク)

デ、タンス、机、本箱ナドヲコシラヘルノガサシモノシデアル。

をはり。

国立国語研究所
1000605087
72424

明治三十八年十月三日
文部省檢查濟

尋常小學讀本五
定價金七錢五厘

明治三十六年九月七日 印刷
明治三十六年九月九日 發行
明治三十八年九月廿一日 翻刻印刷
明治三十八年十月十五日 翻刻發行

著作權所有

著作兼發行者 文部省
翻刻發行者 大橋新太郎 東京市日本橋區本町三丁目八番地
印刷者 愛敬世列 東京市日本橋區本町三丁目八番地
印刷所 博文館印刷所 東京市小石川區久堅町百。八番地
發行所 博文館 東京市日本橋區本町三丁目八番地
發賣所 東京市日本橋區新右衞門町十六番地 合名會社國定教科書共同販賣所

0. 0
24